

令和3年度事業報告

令和3年度に実施した事業の概要は、以下のとおりである。

1. 英霊顕彰事業

国を守るために命を捧げ、今日の日本の平和と繁栄の礎となった戦没者の慰霊・顕彰を行うことにより、戦争の悲惨さと平和の大切さを後世に正しく伝え、日本の平和と世界の恒久平和に貢献するため、次の事業を実施した。

(1) 戦跡慰霊巡拝

ア. 「土佐之塔」慰霊巡拝

沖縄や南方地域で散華された本県出身の英霊1万8千5百余柱が祀られている沖縄「土佐之塔」への慰霊巡拝を、高知県子ども・福祉政策部長、高知県議会議長及び高知県遺族会役員など11人が参加し、11月14日～15日まで1泊2日の日程で実施した。

15日午前に行われた慰霊祭には、地元八重瀬町関係者など沖縄県から17人が参列いただき地元関係者等の協力により、例年どおり厳粛に慰霊祭を挙げてきた。今回は、八重瀬町ガイドの会からも参列のお申し出をいただき2名の方に参列いただいた。

【高知県からの参加人員 11名】

イ. 遺児慰霊友好親善事業等

遺児慰霊友好親善事業では遺族会報や県広報などにより参加者を募った。

本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の全てが中止となった。

(2) 英霊顕彰対策事業

県内市町村や各種団体が執り行う追悼式や慰霊祭等に本部役員や支部役員が参列するほか、メッセージや追悼電報を送付し、英霊の慰霊・追悼を行った。

【参列 10ヶ所、追悼電報等対応 2ヶ所】

さらに、高知県護国神社や靖国神社の例大祭等に協力し慰霊・追悼を行った。

(3) 団体参拝事業

国が8月15日に実施する全国戦没者追悼式へ参列する公費対象の遺族代表を県から依頼を受けて募集し、参加希望者の取りまとめを行った。なお、新型コロナウイルスの影響により、参列者が各都道府県1名、付添職員1名とされた。参列遺族は、当日、式典参列、戦没者の追悼、平和の祈願を行うことができた。

- ・全国戦没者追悼式参列高知県遺族団

遺族 1名 付添職員 1名 (県職員)

2. 広報啓発事業

遺族会報を年4回発行(4,600部発行)し、国の援護行政、日本遺族会の動向や県遺族会及び県下各地域の遺族会の活動状況などの情報を提供することにより、英霊顕彰運動や遺族の処遇改善運動への協力と理解をいただくよう努めた。

また、日本遺族会発行の遺族通信を購読するとともに地区遺族会等に配布し、英霊顕彰運動等の普及を図った。

3. 遺族福祉向上事業

遺族会は、戦没者遺族の処遇改善、遺族の高齢化への対応など多くの課題を抱えており、課題解決へ向けて国等へ働きかける運動を行う一方、会員の資質向上及び遺族運動への理解を深めるための活動を行うなど、主に次の事業を実施した。

(1) 遺族運動推進事業

英霊顕彰、遺族福祉向上を目的とする遺族会活動を推進するため、日本遺族会が主催する各種会議等で、全国の遺族会との意見交換や情報共有等を行った。

12月13日に都内で開催した第76回全国戦没者遺族大会では、全国の遺族代表218人が参集し、英霊顕彰運動の推進や遺族の福祉向上を訴えた。本県からは、会長と事務局長の2名が参加するとともに、大会終了後、地元選出の自由民主党所属の国会議員5名に対して陳情運動を行い、遺族会の要望事項実現を要請した。

(2) 老人福祉事業

100歳を迎えた戦没者の妻を表彰し、これまでのご労苦に感謝した。

【表彰者 100歳 7名】

(3) 遺族大会

新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を中止した。

(4) 青年部事業

青年部（次世代の会）活動企画メンバーによる会議を6月に開催し、取り組む企画の協議を行った。10月に芸西村忠霊塔清掃活動と安芸支部との交流会を芸西村で行い、青年部を中心として25名が参加した。当日は、午前中に忠霊塔の清掃活動を行い、午後から青年部と安芸支部の交流会を開催し、活発な意見交換が行われた。

また、青年部長会議や青年部総会等の会議を開催し、役員改選や活動方針等について協議等を行った。